

議 会 だ よ り

清水町
2019年(平成31年)2月
No.156
■発行 北海道清水町議会
■編集 広報広聴常任委員会
〒089-0192 上川郡清水町南4条2丁目
☎62-3317 FAX62-5160

新体制スタート！

平成31年(2019年)
第1回臨時会

選挙により、議長に加来良明議員、副議長に桜井崇裕議員を選出



議会構成一覽

- 議長 加来 良明
- 副議長 桜井 崇裕
- 総務産業常任委員会
 - 委員長 奥秋 康子
 - 副委員長 山下 清美
 - 委員 深沼 達生
 - 委員 佐藤 幸一
 - 委員 口田 邦男
 - 委員 桜井 崇裕
- 厚生文教常任委員会
 - 委員長 高橋 政悦
 - 副委員長 中河つる子
 - 委員 川上 均
 - 委員 鈴木 孝寿
 - 委員 西山 輝和
 - 委員 中島 里司
- 広報広聴常任委員会
 - 委員長 佐藤 幸一
 - 副委員長 深沼 達生
 - 委員 川上 均
 - 委員 山下 清美
 - 委員 中河つる子
 - 委員 中島 里司
- 議会運営委員会
 - 委員長 鈴木 孝寿
 - 副委員長 口田 邦男
 - 委員 高橋 政悦
 - 委員 奥秋 康子
 - 委員 桜井 崇裕
- とがち広域消防事務組合議員
 - 加来 良明
 - 桜井 崇裕
- 十勝圏複合事務組合議員
 - 加来 良明
- 監査委員(議会選出)
 - 西山 輝和

初

議会となる平成31年第1回臨時会は1月28日に開かれ、正副議長、常任委員会、議会運営委員会などの議会構成が決まりました。

また、一般会計補正予算、北海道市町村総合事務組合規約の制定及び廃止、工事請負契約の締結(共栄橋解体撤去工事)、監査委員の選任の審議を行い、全て原案どおり可決しました。

清水町議会議員13名の顔ぶれ

(写真左上の数字は議席番号)

5  鈴木孝寿 50歳 当選2回	4  中河つる子 71歳 当選1回	3  山下清美 63歳 当選1回	2  川上均 61歳 当選1回	1  深沼達生 57歳 当選1回
10  中島里司 78歳 当選5回	9  口田邦男 74歳 当選5回	8  西山輝和 72歳 当選5回	7  佐藤幸一 71歳 当選3回	6  高橋政悦 59歳 当選3回
●任期4年 平成31年(2019年)1月27日～ 平成35年(2023年)1月26日		13  加来良明 61歳 当選6回	12  桜井崇裕 64歳 当選2回	11  奥秋康子 74歳 当選6回

4年間、
よろしくお願ひします



議長 加来良明



副議長 桜井崇裕

このたび、議員各位の多くのご支持をいただき、三度目の議長に就任を仰せつかり、その職責の重さに身の引き締まる思いをしております。

さて、清水町は人口減少の中、少子化や移住対策、公共施設の老朽化、産業の振興などさまざまな町政課題を抱えています。このような状況下、二元代表制の町政を担う一翼である町議会に与党・野党、町長派・反町長派などありえず、これまでの議会運営においても感じたことはありません。常に議員一人ひとりが是非を基本に、町民目線で建設的な議論のできる議会運営に努めていきたいと考えます。

新年度から議会として新たに取組む、議会広報紙の充実、モニター制度の導入、模擬議会の開催などの事業を通し、町民の皆さまが議会をより身近に感じられるよう議員一丸となり努力してまいりますので、町民の皆さまのより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます、就任のごあいさついたします。

このたびの第1回清水町議会臨時会において副議長に選出されました。

副議長として議長を補佐するとともに、議員間のコミュニケーションを図って円滑な議会運営を、町民の期待に応えてまいりたいと思っております。

また、議会活性化特別委員会で議論したものを積極的に取り入れ、議会の活性化を図ってまいります。

町民の皆さまのご理解とご支援を基にしっかりと職責を果たしてまいりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

就任にあたって
議長・副議長ごあいさつ

平成30年第8回定例会【会期：12月11日～20日】

第一保育所のボイラー更新など、
補正予算を可決

第8回定例会は、12月11日に開会し、20日に閉会しました。

条例の一部改正7件、一般会計ほか5会計の補正予算、損害賠償の額の決定及び和解、計画の変更、計画の策定、規約の変更、意見書の審議を行い、全て原案のとおり可決しました。

補正予算では、第一保育所の温水ボイラーの故障に伴い、更新工事経費358万6千円などが追加されました。一般質問では、11人の議員が登壇し、2日間にわたって活発な議論を展開しました。

行政報告(12月11日)

町道御影南6線道路の車両損傷事故

平成30年11月13日午前9時15分頃、清水町字御影南6線の町道御影南6線道路において、タンクローリー車が取付道路の道路排水用グレーチング上を通行の際、グレーチングが跳ね上がり車両下部に接触。エアタンクブラケット及びエアタンクを損傷した。道路排水はU字トラフ側溝であり、コンクリートの欠損が生じていたので早急に修繕を行った。

平成30年度 補正予算

一般会計 2,044万円減
(9・10回目の補正) 総額99億9,990万円

一般会計の主な補正

◇コミュニティバス運行事業補助金	126万円の増額
◇敬老会食糧費(紅白まんじゅう)	36万円の増額
◇北海道後期高齢者医療広域連合市町村負担金	620万円の増額
◇公衆浴場施設修繕料	114万円の増額
◇公衆浴場給水加圧ポンプユニット交換工事	99万円の増額
◇処理困難物等処理業務委託料(不法投棄のごみ処理)	13万円の増額
◇農村浄化槽設置推進事業補助金(希望者の増)	144万円の増額
◇中小企業近代化資金利子補給等補助金(借入申込みの増)	200万円の増額
◇商工業活性化店舗開店等支援事業補助金(件数の増)	39万円の増額
◇道路管理事故賠償金(行政報告の件)	25万円の増額
◇アイスアリーナラインポンプインバーター交換工事	200万円の増額
◇給食センター施設修繕料	30万円の増額

条例の一部改正

●議会議員の議員報酬、期末手当及び費用弁償
条例の一部改正

議員報酬について、職務異動により減額の場合も日割り計算した額で支給する。

●常勤特別職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告に準じて、町長・副町長・教育長の期末手当の支給割合を改定。
※6月100分の212.5→100分の222.5
※12月100分の227.5→100分の222.5

●職員の給与に関する条例の一部改正

人事院勧告に準じて、一般職員の給料表と期末手当及び勤勉手当の支給割合を改定。
※勤勉手当 100分の90→100分の95
※期末手当 6月100分の122.5→100分の130
12月100分の137.5→100分の130

●廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正

ごみ処理広域化に伴い、処理内容が変更になる事業系ごみ及び家庭系ごみの処理手数料を改正。

●指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

●指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部改正

●指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準に関する条例の一部改正

厚生労働省令の改正により国の基準が改正されたことによる改正。介護保険法の改正により、共生型サービス、介護医療院が創設されたことによる改正。

※共生型サービスとは

障害者が65歳以上になっても使い慣れた事業所においてサービスを利用しやすくする、地域の実情に合わせて限られた福祉人材を有効に活用するという観点から、高齢者や障害児者が共に利用できる「共生型サービス」が介護保険、障害福祉それぞれに位置付けられた。各事業者は利用者のニーズを踏まえて指定を受けるか判断することになる。

※介護医療院とは

主に長期にわたって療養が必要な要介護者に対し、療養上の管理、看護、医学的な管理の下で介護及び機能訓練、その他必要な医療並びに日常生活を行うことを目的とする施設。



町政を問う！ 一般質問

12月定例会では11人の議員が理事者に対し、29項目の一般質問を行いました。なお、質問と答弁は要約しています。

地域コミュニケーションシヨンの場がない状況



桜井崇裕議員

今求められているのは、地域の人々が気軽に集まり話し合うための場づくりではないだろうか。町長が町民との対話の中で感じる地域の課題と、町政執行方針を推進するため、どのような政策を行っていくのかを伺う。

阿部町長

町内会や農事組合の役員の手減少、各老人クラブの入会者の減少、高齢者の通院や買い物など、車を運転しない・で

きない人の生活の確保が課題だと感じている。

また、子どもの数の減少で中学校の部活動を他校と合同で行っている状況があり、送迎などで親の負担が大きくなっている。

課題を解決し、新たな課題を把握するためにも、町民が主役のまちづくり、町民との対話を重視したまちづくりを進めていきたい。

旧熊牛福祉館・保育所

桜井崇裕 議員

旧熊牛公民館・保育所の解体の時期はいつか。解体後の活用計画や地域からの要望はあるのか。

阿部町長

今後2〜3年の間に解体したい。

解体後の活用計画については、現段階では明確な方向付けはしていないが、地域の振興につながる有効な活用方法を考えたい。

地域からの要望はないが、活用計画を検討する際には地域と協議して取り組んでいきたい。

町職員の地域活動と今後の町民との一体的取り組み



原 紀夫議員

①町長が講師を務める職員研修が行われたが、そ

の後、前向きな変化は見られているのか。

②顕著な活動が認められた職員に表彰や特別昇給等で報いる方策は取れないか。

③まちづくり懇談会や新年交礼会は、多くの町民を迎え入れるよう見直すべきではないか。

阿部町長

①まちづくりに対する思いは少なからず職員に伝わったと認識しており、住民目線に立った政策立案や公共サービスの提供に取り組みもの期待している。

②特別休暇や特別昇給については公務員の特権になつてはいけないものであり、報償として実施することは難しい。職員の業務に対する評

価は、現在行っている人事評価制度において適切に評価していく。

③まちづくり懇談会は、これまでの枠組みにとらわれず、町民が気軽に話せるよう少しずつでも形を変えて開催していきたい。

新年交礼会は、現状よりも幅広い分野で、男性・女性それぞれ多くの方が参加していただける実施方法を模索していきたい。

合同納骨塚設置の現状

原 紀夫 議員

平成26年12月の定例会において合同納骨塚の必要性を訴え、その後も数回一般質問を行い、4年

が経過した。

既存の納骨堂を再整備し、早い時期の供用開始を目指すとして寺院等とも協議したようであるが、その後、予算付けもなく推移している。

2年後に設置する予定があるとの話を聞いたが実際はどうなのか。

阿部町長

合同納骨塚の設置に向けては、担当職員が他市町を視察後、その報告内容を基に協議を行った。以前に検討した清水霊園内にある既存納骨堂の再整備ではなく、新たに合同納骨塚を設けることとし、平成31年度（2019年度）に基本的事項を整理・調整して、2020年度秋までに設置し、運用を開始したい。

安心・安全な歩道の確保を



奥秋康子議員

①一般道道熊牛御影線の十勝川に架かる橋に歩道を設置するよう要請を求めた経緯があるが、動きが見えない。その後の整備計画の進捗状況について伺う。

②道道の歩道がひび割れし、その間から雑草が勢いよく伸びている。歩行者の安全確保のため、雑草の除去を関係機関に要請してほしいかがかか。

阿部町長

①北海道へ橋梁架替整備の早期着工を要望してきた。平成31年度（2019年度）から用地測量や用地買収に着手し、2027年頃に供用を開始する予定であるが、歩道は歩行者の通行が少なく

通学路でないため設置しないと聞いている。②道路管理者である北海道に要請する。

高齢者の地方移住

奥秋康子 議員

元気な高齢者の地方移住を促すことで首都圏の人口集中の緩和と地方の活性化を目指す「日本版CCRC」構想に関する取り組みについて、道内では60を超える自治体で推進する意向があるとしている。

十勝管内では既に上士幌町が取り組みを開始しており、本町も取り組むべきと考えるかがかか。

阿部町長

現在の総合戦略を策定する際に日本版CCRC事業の検討をした経緯はあるが、中高年者を含め本町への移住相談や受入れは既に行っており、積極的な事業としての取り

組みは見送った。

今後においては、国や道も推進している事業であることや、人口減対策としての移住定住など、私の公約とも近いので、次期の総合戦略策定までに十分検討していきたい。

元号変更に備えた準備



佐藤幸一議員

5月1日に平成から新元号に改められるが、申請書類やシステム変更などの対応について伺う。

阿部町長

新元号が公表となった時点で作業を開始し、事務に支障がないよう準備を進める。

公文書等においては、元号とともに西暦を併記することで統一しており、混乱がないよう配慮していく。

十勝清水駅 跨線橋対策

佐藤幸一 議員

今年度から開始した清水帯広間のバスの一般利用は、朝夕1往復であり、十分な対策とは言えない。JRとの協議内容も含め、今後の十勝清水駅跨線橋対策についてどのようになっているか。

阿部町長

駅のバリアフリー化は、町が財源のすべてを負担しないと解決しない状況であり、実現は難しい。現在運行している清水帯広線バスは、芽室や帯広方面の医療機関を経由しており、当面はこのような支援を続けるとともに、十勝圏活性化推進期成会などを通じて、国へJR北海道の鉄道施設の老朽更新や路線維持に対する新たな支援制度を設けるよう要望していきたい。

小学校の英語教育義務化

佐藤幸一 議員

2020年の小学校英語教育義務化完全実施に向けて、4月から小学3・4年生で英語が必修化された。コミュニケーション能力の向上が期待される一方、他の教科の時間削減を懸念する声もある。

本町における小学校の授業時間の確保と実態について伺う。

三澤教育長

これまで6時間授業の日を増やすなど、学校と相談しながら順次対応してきた。今後においても学校行事でしか経験できないものを大切にしながら、子どもたちの健やかな成長にとってのよい方向性が望ましいか熟議を重ねつつ、学習指導要領に沿った適切な教育課程の編成に努めたい。

清水高等学校の支援

佐藤幸一議員

先の定例会において前教育長から、「今後も清水高等学校への支援策の充実を図り、4間口確保に向けて積極的に取り組んでいきたい」との答弁があったが、新年度の支援策について伺う。

三澤教育長

これまでの支援策を充実・強化していくとともに、教育委員会の若手職員を中心としたプロジェクトチームを新たに設置し、「魅力ある清水高校」に向けて、意見やアイデアを提案してもらっている。また、遠方から通学する生徒とその保護者から、昼食の確保に苦慮しているとの声もあることから、手伝えることがあれば積極的に協力していきたい。

持続可能な開発 目標「SDGs」 の取り組み



北村光明議員

総合計画や人口ビジョン・総合戦略と重なる具
体的施策が多いと考える
が、本町における持続可
能な開発目標「SDGs」
(※)は何か。

阿部町長

国連サミットで採択さ
れた国際基準として17の
目標があり、ほとんどの
項目が総合計画や総合戦
略の中にも大切な施策と
して入っている。

自治体における持続可
能な開発目標の推進は、
地方創生の実現に資する
ものであり、その達成に
向けた取り組みを推進す
ることが重要であるとし
ているので、次期総合戦
略や次期総合計画などの
策定のときには、SDG

Sの理念を意識した検討
をしていきたい。

※SDGs(持続可能な
開発目標)とは
世界が抱える問題を解決し、
持続可能な社会をつくるこ
のため、世界169の国と
17の目標をよと
った(17の目標をよと
った)のこ

外国人労働者 の現状と今後 の取り組み

北村光明 議員

出入国管理法改正案が
成立した。人手不足への
対応策として新たな在留
資格を設け、建設・介護・
農業などの分野で外国人
労働者の受け入れが拡大
すると思われるが、住民
生活に与える影響と今後
の対応について伺う。

阿部町長

各事業所において異な
る生活文化を持つ方に対
し、本町での生活の支援
が行われており、顕著な
問題や課題については聞

いていない。
将来的には、町民と友
好的な関係を築き、多様
な文化を理解し合い、そ
れぞれの人権を尊重した
より良いまちづくりにつ
ながる取り組みをしなけ
ればならない。

認知症の 予防対策

北村光明 議員

認知症の予防対策につ
いて伺う。
①早期発見のための取り
組み状況は。
②若年性認知症に関する
現状と対策は。
③初期症状(MCI)と
行動心理症状(BPSD)
に関する対策は。
④日常生活を支援する後
見人をどのように育成し
ていくのか。

阿部町長

①専門医の診断を受けて
必要な治療を受けること
が重要で、相談の状況等
に応じ、医療機関につな

げるなどの対応をしてい
る。

②年齢から認知症と疑わ
れなかったり、うつ病や
更年期障害と間違われた
りすることもあり、診断
にまで時間を要するケー
スがある。適切に対応し
、必要な支援を行ってい
きたい。

③高齢者本人や周囲の方
も軽度認知症についての
知識を持つことが大切で
あり、啓発に努めていき
たい。また、医療機関と
の連携により、必要な治
療等につながるよう対応
していきたい。

北村光明 議員

本町の歴史及びその資
産を生かしたまちづくり
を行う考えはない。

歴史的資産を生 かすまちづくり

北村光明 議員

本町の歴史及びその資
産を生かしたまちづくり
を行う考えはない。

が必要と考えるが、次の
点について伺う。
①清水町百年史の在庫は
どのように活用するの
か。
②本町の歴史的な調査研
究及び歴史教育への現状
認識と今後の課題につ
いて伺う。

③図書館の図書整理と郷
土史料館の整備をどう行
うのか伺う。

阿部町長

①移住者への寄贈、職員
研修での活用などを検討
している。

三澤教育長

②2022年に開町12
0年を迎えるにあたり、
百年史以降の部分につ
いても、町の歴史の研究に
関心のある方々と整理を
進めていきたい。

歴史教育については、
本町の歴史を後世に残す
ため、子どもから大人ま
で広く伝えていかなけれ
ばならない。

③利用者の要望に応えら
れるよう収蔵冊数の見直
しと蔵書内容の刷新を図

っていく。
郷土資料については、
生涯学習ボランティアや
町の歴史の研究について
関心のある方々と連携・
協力しながら整備を行っ
ていく。

酪農・畜産の 振興支援策



大谷昭宣議員

胆振東部地震による停
電で生乳の廃棄を余儀な
くされ、乳房炎の発症や
牛のストレスによる乳量
の減少など大きな被害が
出た。

加えて、6月から7月
にかけての長雨の影響で、
1番牧草の収穫の遅れに
よる栄養価の低下や、デ
ントコーンの生育不良に
よる自給飼料の不足が今
後の生乳生産に大きな影
響を及ぼすものと思われ
る。

町財政の 現状と今後



口田邦男議員

行財政改革に取り組み、
健全財政の仲間入りがで
きたかと思うが、多くの

今後の酪農・畜産の振
興支援策について伺う。

阿部町長

発電機の導入は酪農経
営において高額な負担で
あるので、国の事業を活
用して負担軽減を図りな
がら、いつ発生するかわ
からない非常時に備え、
できるだけ長期間活用可
能な発電機の導入を進め
たい。

粗飼料導入支援につ
いては、国が代替粗飼料の
確保に要する経費として、
1トン当たり5千円以内
の支援をしているので、
有効に活用して粗飼料の
確保につなげたい。

事業を展開して将来
の財政は大丈夫なのか不
安な一面もあり、次の点
について伺う。

①台風10号による災害復
旧費の実質町負担額は1
億3900万円が変わり
ないのか。
また、今後の河川や排
水路の維持管理はどうな
るのか。

②平成29年度の実質公債
費比率は前年度より0.
7ポイント改善したが、
改善の理由と今後の推移
について伺う。
③平成35年までは債務残
高が多い。大型事業はそ
れ以降になるのか。

阿部町長

①金額は変わっていない。
河川、排水路の今後の維
持管理については、災害
時に被害拡大を招かぬよ
う河川補修や排水路の雑
木伐採を強化していく。

②水道・下水道事業会計
において地方債償還の財
源とする一般会計繰出金
の減少が主な要因。
今後は、次年度以降増

町民バスの小 型化の考えは

口田邦男 議員

町民バスの利用には規
制があり、利用したくて
も利用できない状況があ
る。
今後はバスを小型化し
て、町民サービスを重点
とした運行にすべきと考
えるがいかがか。

三澤教育長

現在の町民バスは平成
7年に導入して23年が経
過していることから、今
後は、更新時期や利用状
況を踏まえ、小型化を検
討していきたい。

「清水町人口ビジ ョン・総合戦略」の 進捗・達成状況と 戦略の見直し



西山輝和議員

平成27年に策定した「清
水町人口ビジョン・総合
戦略」は、来年度が最終
年度で仕上げの年となる
が、進捗状況を伺う。
計画を見直すと思っが、
複数町村の連携の必要性
について、どのように考
えているか伺う。

阿部町長

総合戦略にある39事業
の進捗状況は、平成29年
度末時点で期間内に達成
できる見込みの事業は23
事業、更なる推進や強化
が必要な事業は11事業、
平成30年度以降に実施又
は検討予定である事業が
5事業となっている。
人口減少により住民サ
ービスを低下させないた
めにも、複数市町村の連

町内の 交通安全対策

西山輝和 議員

近年、御影地区の交差
点で数件の事故が発生し
ている。

町内の交差点を再点検
して交通事故防止に万全
を期す必要があると思っ
ていかがか。

阿部町長

危険な交差点や見通し
の悪い箇所が多くあるこ
とは承知しており、徐々
に改善を進めている。
危険箇所や要望事項を
再度点検して、新得警察
署の助言を受けながら、
町や生活安全推進協議会
等が独自でできる安全対
策については、できる限
り実施していきたい。

御影市街地中心 部のまとまった 空き地対策

西山輝和 議員

御影市街地の中心部に
十勝清水町農協が所有し
ているまとまった土地が
ある。
この土地の利用計画に
ついて何か話は聞いてい
るか。

計画がない場合、町が
農協の協力を得る形で地
域振興等に活用できな
い。

阿部町長

現在のところ利用計画
はないが、施設の整備が
必要となった時に活用で
きる土地であることから、
組合員全員の貴重な財産
として保有しているとの
こと。
町から市街地の活性化
につながる計画の提案な
どがあれば利用の検討は
したいとのことなので、
町として必要になったと
きは農協と協議したい。

コミュニティスクール導入の考え方

西山輝和 議員

平成29年の地方教育行政法の改正でコミュニティスクールの導入が努力義務化されたが、次の点について伺う。
①導入に伴う代表的な活動について伺う。
②導入により期待するものは。
③導入についての考え方の時期（予定）を伺う。

三澤教育長

①保護者や地域住民などから構成される学校運営協議会が設けられ、学校運営の基本方針の承認、教育活動などに意見を述べるといった活動が行われる。
②学校と地域住民等が力を合わせて学校運営に取り組むことで地域が一体となり、特色ある学校づくりが進められることを期待している。

安田 薫 議員

事業が増加し、多くの自治体では非正規職員を増やすことで対応してきたが、本町はどうであったか。
また、人口減少に対応して、事業の取捨選択を行っているか。
阿部町長 財政状況の改善に向けて職員の採用を抑えてきたこともあり、限られた人員を動員して対応している。

③「しみず」教育の四季の取り組み自体がコミュニティスクールでうたわれている「地域とともにある学校づくり」そのものであると考えており、この組織を再編成して平成31年4月から導入していきたい。



安田 薫 議員

きている。
臨時・非常勤職員については、限られた分野の中で拡大をしないで対応してきている。
事業推進の選択は、住民生活をしっかり支えること、町の発展につながる新たな取り組みを進めることを念頭に、財源と町の資源を効果的に投入して持続的な運営ができるよう判断していく。

公園等のトイレの洋式化は

安田 薫 議員

御影パークゴルフ場で洋式のトイレがなくて困っている高齢者がいた。アイスアリーナのトイレは休館日だったため利用できなかった。
本町における公園等のトイレの洋式化の状況について伺う。

阿部町長

市街地の公衆トイレについて、身障者用の洋式

のみ設置しているところが3か所、男女とも1個ずつ洋式を設置しているところが2か所ある。
清水公園については下側の駐車場、パークゴルフ場内のパノラマハウス、上側の駐車場に洋式トイレがある。
洋式トイレがないところは清水公園のほか、児童遊園地で5か所ある。
御影パークゴルフ場のトイレは、新年度に男女各1個の洋式化を計画している。

単身者住宅の入居条件

安田 薫 議員

町の単身者住宅が空いているように思われる。入居条件にある年齢制限を緩和できないか伺う。

阿部町長

御影単身者住宅は、特定公共賃貸住宅として国の補助を受けて建設されたもので、公営住宅に入

居できない収入階層の若年単身者を入居対象者としている。
若年の定義については、町の裁量で決定できる部分でもあるので、年齢制限の緩和に向けて検討していきたい。

超高齢化社会に対応した地域包括ケア再構築

安田 薫 議員

超高齢化社会に対応した地域包括ケア再構築について2点伺う。
①大都市の高齢化が急速に進んでいる。地方（わが町）に大都市の福祉施設を建設してもらうことで、交流等は考えられないか。
②本人が望めば、在宅での介護、看護、医療を提供し、単独世帯でも終末まで在宅を維持する支援を提供できるか。

阿部町長

①都市が地方、どちらの介護保険事業計画に位置

付けるのか、介護給付の財源はどちらが負担するのかなどの調整が必要で、住環境の変化や入所者のストレスを懸念し、遠隔地の特養建設に批判の声もある。
介護保険制度の動向や他の自治体の事例などを注視していきたい。
②医療と介護が連携して対応しなければならぬ。本町において、ひとり暮らしの利用者に提供できる24時間対応のサービス体制はなく、介護施設や医療機関の利用が必要となる場合もある。

舗装道路の穴埋めを



中島里司 議員

平成28年8月末の台風被害によって、復旧工事車輛の流れが変わった。農道で整備した道路に大

型車が頻繁に走るようになり、舗装の傷みが激しくなっている。
毎年修繕を実施していることは承知しているが、次の点について伺う。
①補修計画は何を基準に立てているのか。
②補修の時期と補修の方法について伺う。
阿部町長 ①パトロールにより舗装の傷み具合や交通量などの状況を毎年確認し、補修方法を検討の上、補修計画を策定している。
②舗装道路の穴ぼこは、特に凍結が緩む春先に集中するので、応急措置として直営で常温合材や土の投入を行い、状況を見て6月頃から舗装補修工事などを実施している。

清水高校の生徒が卒業のとき、身に付く支援を

中島里司 議員

清水高校が努力していることは承知しているが、限度がある。
4間口の維持については、町として教育委員会がその役割を果たさなければならぬ。
いろいろな方法があると思うが、一つの提案として、十勝管内の大学の先生と清水高校（生徒）が知識の連携を図れるよう検討できないか。
今後の魅力づくりへの支援についても伺う。

三澤教育長 十勝管内の大学とは具体的な連携事業にまで至っていないが、清水高校とも相談しながら検討していきたい。

魅力ある清水高校づくりに向けた取り組みとして、教育委員会を中心とした若手職員によるプロ

高橋政悦 議員

当町の除雪体制はその多くを建設業者に担ってもらい、地域住民の安全・安心を確保してきた。
しかし、災害復旧事業による受注増があったとはいえ、今後は公共事業費の削減が予想される中、建設業者の経営状況、ま

除雪体制確保に 向けての対策と 今後の方向性



高橋政悦 議員

た、除雪機械のオペレーターへの確保、機械の維持管理費の負担増など、課題は深刻化してきている。
除雪体制確保に向けて行政としての対策、今後の方向性について伺う。
阿部町長 除雪会議の中でも、今後はオペレーターの高齢化により担い手不足が生じるとの話があったので、大型特殊機械免許等の資格取得への支援策を検討していきたい。
豪雪時の緊急時体制については、協力体制が確立したところであるが、さまざまな課題について委託業者と話し合いながら、安定的・継続的な除雪体制の確保について協議を進めていきたい。

十勝清水 肉・丼まつり

高橋政悦 議員

平成30年9月16日に開催された「十勝清水肉・

丼まつり」について、町長の事後評価を伺う。
また、次年度以降の計画、その開催日、場所、寄附金・協賛金の在り方等を伺う。
阿部町長 短い準備期間であったが、商工会、建設業協会、観光協会等を実行委員とする実行委員会により準備を進めた。
当日は予想を超える多くの方に来ていただき、9種類の丼やサイドメニューを堪能されたことで本町の優れた畜産資源を広くPRできたものと評価している。
次年度の開催については、過日の実行委員会、開催日を9月1日（日）、会場を有明公園とすることに決定した。
寄附金・協賛金については今回と同様に、商工会、建設業協会、観光協会の会員に協力を呼びかけ、賛同いただける事業所から協賛をいただくことを想定している。

意見書の提出
次の意見書は第8回定例会において可決され、議会はこれに関係行政庁に提出しました。
◆JR根室線の早期災害復旧と路線維持を求める意見書
◆日米物品貿易協定交渉に関する要望意見書

件名	提出者	審査委員会	結果
日米物品貿易協定交渉に関する請願について	清水町 農民連盟	総務産業 常任委員会	採択

委員会 レポート

委員会活動として閉会中に行った所管事務調査の内容を、各委員会は平成30年第8回定例会において報告しました。

※要約して掲載しています。報告書の全文は清水町議会ホームページでご覧になれます。

【町民生活課】
ごみ処理の広域化による十勝圏複合事務組合への加入時負担金が当初の試算よりも2300万円増、年間分担金が1千万円増となった。

ごみ処理の広域化について

厚生文教常任委員会 調査報告

前回調査（平成29年7月）以降の状況について調査を実施した。併せて、十勝圏複合事務組合くりりんセンターを視察した。

ごみ処理の広域化について

比較では、当初の試算より総合計で2千万円増となった。



くりりんセンターを視察

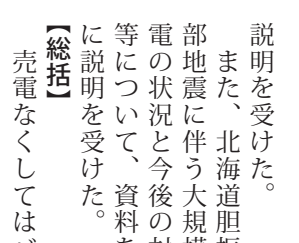
施設の修繕状況については、平成27年度から平成29年度にかけて大規模な基幹的改良更新が行われており、年次計画を持って焼却施設と大型・不燃ごみ処理施設の機器更新を行っている。

【総括】

ごみ処理の広域化で2千万円以上の経費削減が見込まれるとされていたが、200万円に縮小されていた。根幹に関わる問題となり得るので改めて町民に説明する必要がある。

総務産業常任委員会 調査報告
産業振興におけるエネルギー確保について
バイオガスプラントの導入拡大及び大規模停電時における電力確保等の対策について調査を実施した。

停電時の電力確保のための発電機導入事業は、酪農家への支援のために国と道が実施するもので、導入が進めば本町における酪農家の発電機保有率は約77%になる見込み。



農林課と北海道電力から説明を受けた

胆振東部地震によるブラックアウトにより、電気はライフラインの一つとして重要なものだとして認識した。防災計画の中にも電源の確保をしっかりと位置づける必要がある。

議会活性化特別委員会 調査報告

調査・検討の終了にあたり、中間報告の内容も含め、平成30年第8回定例会で結果を報告しました。

※要約して掲載しています。

議会の活性化等について

【調査期間】平成28年6月21日から平成30年12月3日
【委員会の開催】計33回

調査・検討の順序は、常任委員会の所管の調査・検討を先行して行い、その後、本委員会で提起した10項目、全員協議会で提起された4項目の調査・検討を順次行った。

常任委員会の所管の調査・検討結果
総務文教・産業厚生2の常任委員会としていたが、平成29年1月27日から総務産業・厚生文教の2常任委員会に変更している。

本委員会で提起した10項目の調査・検討結果
① 一般質問の答弁書の必要性
答弁書は必要との結論になったが、質問議員が希望しない場合は求めない選択制とし、当日の朝に希望する議員本人へ配付することとした。

② 請願者・陳情者による趣旨説明機会の設定
現状でも提出者の意見を聴くことは可能であり、委員会審査において積極的に説明機会を設けていくことになった。

③ 一般質問での質問内容は正に向けた議長等の裁量権の拡大（重複質問の取扱いを含む）
裁量権の拡大は行わず、現行のままとする。

④ 各種会議の持ち方の見直し（全員協議会での積極的な意見交換を含む）
既に「自由討議」を導入しており、議員間の議論をこれまで以上に深めていくこととした。

⑤ 初回質疑（質問）からの一問一答の導入
初回質疑は現状どおり一括質問とする。質疑は初回から一問一答方式を導入し、質疑での制限は現行のままとする。

⑥ 分かりやすい議会広報の作成（議会ルール

の説明を含む）
広聴活動を含めた常任委員会を設置する結論になり、広報広聴常任委員会を設置した。

⑦ 町民の声を聴取する場の設定（模擬議会、団体との懇談会を含む）
中学生・高校生を対象にした模擬議会に取り組み、団体との懇談会は、希望があればいつでも実施することになった。

町民の声を聴取する場として「議会報告会」と町民との意見交換会を開催しており、当面は他の取り組みは行わないことになった。

⑧ 議会サポーター制度・モニター制度の導入
議会モニター制度を5〜10名程度の人数で導入し、サポーター制度はモニター制度導入後に検討することになった。

⑨ 政務活動費の導入
議員定数、議員報酬と一緒に検討することになった。

⑩ 議員の資質向上
道外などの研修機会を増加させることになった。

全員協議会で提起された4項目の調査・検討結果

① 議員定数
委員会活動を考慮して現状の13人のままとの案をまとめた。町民意見の聴取においても、「現在のままでよい」との回答が多数であったことから、現在のまま13人との結論に至った。

② 議員報酬
議員報酬を引き上げる方向で案をまとめたが、町民意見の聴取において、一定の理解は得られたものの、大多数の方の理解を得るまでには達していないと判断し、現在のままの報酬額とした。

アンケート結果等の資料を執行側へ提供し、他の特別職の報酬等を含めた検討を要請するとの結論に至った。

議員報酬の職務の異動による減額の場合については、日割り計算した額の支給へ改めることとした。

議員期末手当については、人事院勧告に準じた支給月数に改める

ことになった。政務活動費については、導入しないとの結論になった。

③ 委員会の所管
これまでの調査・検討以外、他に調査・検討する事項はないとした。

④ 委員任期
現行どおり2年のままとする。

まとめ
約2年6か月にわたる本委員会での調査・検討においては、可能なものから議会の活性化に取り組むとの方針が進められたが、委員間の意見調整等に時間を要する項目もあり、苦慮しながら調査・検討結果をまとめた。

今後においては、更に「聞かれた議会」「分かりやすい議会」を目指し、日常的に議会の活性化に取り組んでいくことが必要で、今回、協議を見送ったタブレット導入などの議会におけるICT推進については、次期議会に検討を引き継ぐとともに、更なる議会改革の取り組みを期待する。

議会のうごき

11月	26日 厚生文教常任委員会
	27日 議会運営委員会 議会活性化特別委員会
	30日 全員協議会 議会活性化特別委員会
12月	4日 議会運営委員会
	11日・17日・18日・20日 第8回町議会定例会
	11日 総務産業常任委員会
	17日・18日 全員協議会
1月	28日 第1回町議会臨時会（初議会） 全員協議会 総務産業常任委員会 厚生文教常任委員会 広報広聴常任委員会 議会運営委員会
2月	5日 広報広聴常任委員会
	12日 厚生文教常任委員会
	13日 総務産業常任委員会

議会や議会だよりに関する ご意見・ご要望などをお寄せください

回答しますので、住所・氏名などの記入をお願いします。

清水町議会事務局 ☎ 0156-62-3317 FAX 0156-62-5160
e-mail gikai@town.shimizu.hokkaido.jp

議会を 傍聴して みませんか

開会 3月5日 (火曜日)

3月定例会は3月5日に開会を予定しています。
傍聴は町議会での審議の状況を直接ご覧になることができる身近な方法です。

傍聴の手続きは、受付簿に住所・氏名を記入するだけです。気軽においでください。

団体での傍聴も歓迎いたします。12月定例会では、女性セミナー、商工会女性部、町内会連絡協議会の皆さまが傍聴されました。

定例会、臨時会、予算審査特別委員会はインターネットで生中継しています。過去の中継もご覧になれます。希望があればDVDの貸し出しも行っています。

清水町議会ホームページ <http://www.town.shimizu.hokkaido.jp/gikai>

総務産業常任委員会

・所管に関する事項について

厚生文教常任委員会

・所管に関する事項について

広報広聴常任委員会

・議会広報紙の編集及び発行について
・その他議会の広報及び広聴に関する事項について

議会運営委員会

・議会の運営とその諸規定について
・議長の諮問に関する事項について

閉会中の
委員会
活動

編集後記

今年の冬は雪が少なく、底冷えのする寒さが頬を打ち、つらい冬となりました。昨年はブラックアウトに見舞われ電気のありがたさが身に染みる一年となり、こうした対応にも配慮しなければ町民の皆さまの安心安全は提供できないと痛感させられました。

広報広聴常任委員会が新しいメンバーになりました。議会の内容を身近に感じていただける紙面づくりに努力いたしますので、今後もお愛読くださいますようよろしくお願い申し上げます。

広報広聴常任委員会委員長 佐藤 幸一



広報広聴常任委員会

次号から紙面のリニューアルを予定しています。取材の際は、ご協力をお願いします。